2025 年 5 月 18 日（日）特別授業指導案（於、筑波大学附属小学校 4 年学級）

社会科を窓に次世代に培いたい観光の学び

―観光客目線からの思考を通して東京都の魅力に気づく―

（公社）日本観光振興協会人材育成委員会副委員長
名桜大学特任教授・玉川大学名誉教授　寺本 潔

●観光の学びは、どうして重要なのでしょうか

今や、観光は我が国の発展に欠かすことのできない産業に成長しています（国内旅行客から23兆円、外国人客から8兆円の消費額）。しかし、観光業を担う次世代の育成や観光産業としての世の中の評価は、依然低調なままです。例えば小中高の社会科教科書を開いてみても、自動車産業や農林水産業、情報産業などの記述は10～40数頁も割り当てられて詳しいのに比べ、観光業についての記述は皆無に近いのです。観光業や観光の動向は社会のグローバル化や地方創生にも関わり、「平和の構築（国連のスローガン：観光は平和へのパスポート）」にも寄与する魅力的な教育ジャンルであるにもかかわらずその意義が語られていません。

しかし、**昨年度、長崎市が初めて小学校段階からの観光教育の普及とシビック・プライド育成を結びつけ、観光政策課と教育委員会が連携し筆者による観光教育出前授業を誘致してくれました。長崎大学教育学部にも推進役を買って下さる研究者が現れ、キャリア教育の側面から高校の魅力化とも相まって小中高大学という系列で観光の学びが認知され始めました（長崎放送の番組で報道）**。観光の重要性に気付かせ人材育成につながる**観光教育**が推進できれば、企画力や地域連携、シビックプライド（地域への誇り）も育成できます。観光ガイド役や外国人観光客へのインタビュー体験で英語を使う実践の機会を与えることができれば、児童に外国語に対する強い興味を喚起することができます。東京都は観光題材を通した学びが実現できる好ポジションです。東京23区には全て観光協会があり活発な広報活動を行っています。連携して社会科や総合へ観光題材を導入できないものでしょうか。

教科書への記述が皆無に近い観光題材ですが、例えば、小学校社会科第３学年の単元「わたしたちの市の様子」に位置づく、市の自然や交通、産業の様子を「観光」を窓口に組み替えることも可能です。「年間〇百万人もの観光客が〇〇市・区を訪れる理由は何だろう？」と発問するだけで、授業は始められます。市・区を巡る１日ツアープランを立案させても楽しい学習になります。**4年の県の単元では県の地理的条件を観光視点から組み替えることが可能です（観光地誌の考え）**。また、その県の伝統工芸品を生産の工夫だけでなく、土産物として扱う視点（デザイン、固有の価値）に気づかせて下さい。5年情報の単元でも観光情報が多様な産業を活性化している事実が扱えます。農業単元でもブランド米や日本酒、リンゴや柑橘類、和牛は今や観光資源に高まっていて、旅番組で紹介される特産品は、ほとんど観光商品とも言えます。6年歴史単元の江戸時代の旅や「世界とつながる日本（国際理解教育）」も観光題材を窓に組み直せます。東

京都をはじめ観光客が多数来訪している地域では、観光教育を推進し将来のキャリア選択（出版、旅行、宿泊、飲食、交通、不動産などの仕事への関心）にも応えるメリットがあります。観光教育の重要性を教育界の方々も気づき、授業実践に移す段階に入ってきているのではないでしょうか。

●多角的な思考力・判断力を育み探究する授業を

（公社）日本観光振興協会では、先駆的な取り組みとして**『はじめて学ぶ観光副読本 観光でまちを元気に！日本・ふるさと再発見』**（20頁/15000部）及び『教師用手引書』を発行しています。観光産業は、宿泊業や飲食業はもとより、交通産業、地域の農林水産業、商業、不動産業、情報産業の振興や文化財保全にも貢献できます。観光題材の学びを展開する上で県や市区町村の観光協会をはじめ、DMOと呼ばれる地域観光の振興を担う法人も各地に設立され教育界を応援できる体制が整いつつあります。6年前には普及動画「観光教育ノススメ」（24分間・寺本も関与）が作成されています（YouTubeで視聴可）。また北海道教育委員会義務教育課を検索して頂くと「ふるさと教育・観光教育推進事業」が見出せます。その中で指導の手順が解説された『観光教育ガイドブック』（寺本が制作に協力）がPDFで入手できます。日本観光研究学会や日本地理教育学会では昨年初めて3～4本の観光教育関連の研究発表が登場しました。

●思考ツールと横断的な学び

様々な思考ツールを導入し、ペアやグループで話し合い、他者（旅行客）を意識したプレゼンテーションの場を用意すれば主体的学びが生まれます。地誌的な知識や地図読解技能は学びの過程（習得と活用）で身に付くものです。まずは、内容面で親和性のある社会科から観光題材を導入し、総合とタイアップし、観光探究に比重をおいた単元立案を構想できないものでしょうか。配当時間数が多くないため教科・特活と総合との関連づけを構想し横断的に学びを深化させて下さい。社会科には４年（県）、５年（国）、6年（外国）が題材として登場します。そうした学びにも観光題材を取り入れた学びは、授業に新たなスパイスをもたらす面白さを持っています。なぜなら観光は、人々に「感幸」をもたらす素敵な分野だからです。

【参考文献】

寺本・澤編著『観光教育への招待－社会科から地域人材育成まで―』ミネルヴァ書房、2016 年発行。寺本潔著『地理認識の教育学－探検・地理区から防災・観光まで―』帝国書院、2021 年発行。寺本潔著『観光市民のつくり方―地域の価値を磨く子ども時代からの学び―』日本橋出版、2024 年発行。昨年より、帝国書院HPでは、WEB会員向けに「地図帳の観光読み（3・4・5・6年）：寺本執筆」が紹介されています。

特別授業

筑波大学附属小学校第４学年　指導案（令和７年５月 18 日９：30～11：10）

授業者　寺本　潔

●本時の目標

観光が東京都や我が国の発展にとって大事な産業であることを知り、旅行客のニーズや観光振興による地域活性化を自分事として捉え、住んでいる東京都の観光の魅力を他者目線に立って考え、おススメ東京都旅行プランを仲間と協働的に立案することができる。

●評価規準

・東京都の観光資源に関する既習知識を６枚の「観光の花びら」ワークシートで分類し捉えることができる（知識・技能）。

・他者目線で東京都の観光資源について思考・判断し、旅行客のニーズに沿った旅行プラン提案という形で表現できる（思考・判断・表現）。

・都を紹介した観光パンフレットの読解とそこから発案できる旅行プランを通して都の観光振興に積極的に関わろうとする（主体的に学習に取り組む態度）。

●使用する教材　『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（帝国書院），『東京トラベルガイド』（東京観光財団），「観光の花びら」及び「ポジショニングマップ」「東京都１泊２日旅程作成」各シート，授業者作製のイラストカード

●本時の展開

	学習内容	指導上の留意点
導入 展開 １限のまとめ	【1 限目】〈住んでよし・訪れてよしの東京都の魅力を調べよう〉 １　『楽しく学ぶ小学生の地図帳』と観光副読本『観光でまちを元気に！日本・ふるさと再発見！』p3 掲載の「観光の花びら」を班で考え、シートに考えを記入する。 ２ いくつかの班の記入を聞き合い、東京都の観光資源を改めて知り、一方で訴求力が弱い観光資源への注目の必要性を知る。 ３ 東京都への旅行を楽しみに多くの観光客が国内外から来訪している事実を知り、副読本ｐ．9～10 を通読しそこに掲載されているインバウンド需要の重要性に気づく。 ４旅行する客層に応じたポジショニングマップの考え方を学び、5 種類の属性カードを二軸のシートで位置付ける。旅行商品は観光客目線で考えることが大事であることを知る。 ・ファミリー、ハネムーナー、熟年夫婦、女子	・東京都の魅力である「建物・施設」「歴史」「食べもの」「祭り・イベント」は容易に想起できるが、「自然」や「生活文化」が具体的に思いつかない場合、伊豆諸島や下町言葉、暮らし方、街並み、漫画・アニメでもよいことを告げる。 ・これからは自然や生活文化を磨くことも大事であることを押さえる。 ・「おいしい日本食」「ショッピング」「賑やかで安全な都市景観」「スポーツ・芸能」「温泉」「忍者」「漫画・アニメ」が東京にあることを確認させ、外国人に魅力ある観光地であることを振り返るよう促す。 ・班で意見を出し合い、属性カードを理由付きで配置できるよう促す。観光客は同じでないことに気づかせ他者（観光客）目線で観光を考えることの大切さに気付かせる。 ・２限目に使用する東京観光財団発行

導入 展開 まとめ	大学生、外国人の５種類の属性カードを配置するワークを楽しむ。 〈休憩〉 【2 限目】〈観光客目線で東京都の地誌を生かした旅行プランを立ててみよう〉 ５よりよい観光を実現するには旅行客の属性とそのニーズに見合った旅行プランを提案することが大事である点を知り、東京観光財団発行『東京トラベルガイド』の深読みの必要性に気づく。 ６『トラベルガイド』と『地図帳』を活用ながら仲間と前時で扱った「花びら」や「属性カード」も念頭に、旅行客目線に応じた２日間の“おススメ東京都旅行プラン”づくり（旅程）に挑戦する。 ７立案したプランを発表し合う。	『東京トラベルガイド』を事前に配布しておく。 ・『東京トラベルガイド』は都心だけでなく多摩や島しょ地域も掲載されていることを確認する。 ・『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（帝国書院）に掲載されている東京都の地勢図を活用するよう促す。 ・客の属性やニーズに応じた１泊２日の“おススメ東京都旅行プラン”を簡単な旅程表に書くよう促す。 ・東京都の地誌的な用語（交通、繁華街、史跡、山地、海洋名等）を用いることが旅行を充実させることにつながる点を示しておく。

授業者紹介

寺本　潔（てらもと　きよし）

熊本大学卒、筑波大学大学院修了、同大学附属小学校教諭を経て愛知教育大学・玉川大学教育学部、東京成徳大学子ども学部勤務。昨年４月より沖縄県にある公立大学名桜大学特任教授に就任。愛知県及び神奈川県、東京都に多くの教え子を輩出。その間、文部科学省学習指導要領作成協力者（社会：平成10年版、20年版）、中央教育審議会専門委員、愛知県義務教育問題協議会座長、名古屋市2010計画審議会委員、豊田市教育行政審議会、愛知万博モリコロ基金委員、玉川大学教育学部長・通信教育部長・全人教育研究センター長、観光庁初等中等教育における観光教育の推進に関する協議会委員、ちゅうでん教育振興財団教育大賞審査委員長などを歴任。検定教科書『小学社会』（教育出版）及び『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（帝国書院）の著者も務めている。21世紀日本委員会論文賞、中部開発センター懸賞論文優秀賞、『観光教育への招待』ミネルヴァ書房は観光学術学会並びに日本観光研究学会にて出版著作賞受賞。児童生徒向けとしては、『よのなかの図鑑』小学館、『ポプラディアプラス日本の地理』ポプラ社全7巻があり、9月には『絵さがし都道府県』という楽しさ満載の地誌絵本が同社から刊行予定。